

公益社団法人私立大学情報教育協会

平成 24 年度第 3 回情報教育研究委員会情報リテラシー情報倫理分科会 議事記録

I. 日 時：平成 24 年 7 月 27 日(金) 17:30~19:30

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、田村委員、前野委員、中西委員(Skype)、本村委員(Skype)

事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 情報リテラシー教育のガイドラインについて

- ・ ガイドラインの到達目標 3 を中心に再度検討を深めることにして、以下の内容が検討された。
- ・ 到達目標 2 については、学修方法の例示の到達度の変更を行った。到達度 1 について、情報通信技術やソフトウェアの特性を理解するから、活用方法についてグループ討議させ、解決手順・方法の検討や情報通信技術の適切な活用の重要性を理解させることにした。また、問題解決に適した選択は、実務家と連携して効果的な活用について探究させることにした。
- ・ 到達度 2 は、ツールなどの利用を文中に表現し、課題を提示することから開始することにした。
- ・ 到達度 3 は、生産的なコミュニケーションを行うための留意点の表現をへんこうして、円滑で効果的なコミュニケーションの在り方を考えさせるにした。
- ・ 到達目標 3 については、シミュレーションを追加して問題解決に活用できることに変更した。解説では、データ表現や ICT の仕組みの理解、社会で情報通信システムの役割を理解し、簡単なモデルの構築、問題解決への適用、妥当性の検証で、科学的な解析能力を身に付けることにした。あわせて以下に到達度の変更も行った。
- ・ 到達度については、1. 仕組み理解と日常生活に利用、2. 情報システムと実生活を関連づける、3. モデル化し、プログラミングやシミュレーションを問題解決に応用できる。としていたが、情報通信システムの構築を考察させるために、1. 動作原理・構成を理解し、情報を科学的に捉える、2. モデル化とシミュレーションを通じて問題解決に取り組む、3. 社会における役割を考え、有益なシステムの在り方を考察することにした。
- ・ 学修方法の例示のあわせて更新をして、シミュレーションの結果を分析・評価し、モデルの妥当性や限界を議論させる。社会を発展させるための情報通信システムの構築を考察させるなどの内容を追加変更をした。

V. 今後の予定について

- ・ ガイドラインのとりまとめの経緯、大学が目指す情報リテラシー教育、情報リテラシー教育の位置づけと体制、大学ガバナンスによる支援について後日まとめ、ネットで検討することにした。